

松戸市次世代育成支援 第1回 市民会議」

日 時 平成16年6月22日(火) 午後 5時30分から8時
場 所 松戸市役所5階市民サロン

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. 市長挨拶
4. 委員自己紹介
5. 議 事

次世代育成支援行動計画策定について(事務局説明)

(1) 計画策定の基本的な考え方

国では、平成14年9月20日に少子化対策プラスワン、平成15年7月9日に次世代育成支援対策推進法案、平成15年7月23日に少子化社会対策基本法が成立。(各法の前文、目的、基本理念を説明)

次世代育成支援対策の行動計画策定指針によれば、計画に盛り込むべき内容は現在松戸市こども育成計画(平成10年策定)とほぼ一致する内容となっている。一方、こども育成計画は策定からすでに5年が経過していることから、近年の環境変化、とりわけ育児や教育など家族機能の一段の低下への対応などを組み込んだ見直しが必要になってきている。このため、松戸市としては、子ども育成計画のローリングに国が求めている目標供給量を組み込み、もって行動計画とする。

(2) 子育てサービス等のデータ

サービスの利用状況

保育・産休明保育・幼稚園・放課後児童クラブ・肢体不自由児通園施設・知的障害通園施設・児童館利用者数・子育て支援センター・乳幼児健康支援サービス事業・ファミリーサポートセンター事業・こども短期入所(ショートステイ)利用状況・こども夜間養護・母子生活支援事業・入院助産措置事業・小中高等学校の状況・給付関係等を説明。

子どもの状況

子どもの人口・一人親世帯数・虐待の概要を説明。

第 1 回 市民会議議事録

(3) 松戸市次世代育成支援行動計画策定に関するアンケート調査概要

調 査 名 称 次世代育成支援に関する市民アンケート調査
調 査 期 間 平成 1 6 年 3 月 1 日 ~ 3 月 1 5 日
調 査 の 種 類 7 種類の実施。 未就学児童保護者 1,500 人、 小学校就学児童保護者 1,500 人。 小学 5 年生 516 人、 中学 2 年生 505 人、 高校 2 年生 502 人。 独身者 1,000 人。 一般市民 1,000 人。 郵送による配布・回収。 合計配布数 6,523 通。 回収数 3,697 通、回収率 56.7%。

(4) 松戸市次世代育成支援行動計画策定に関するアンケート調査結果概要

【未就学児童保護者】

回答者の属性 子育てと夫婦の働き方 子どもをみてもらう場合の方法 自治体に望む子育て支援策 公的福祉と国民の負担のバランス

【小学生保護者】

回答者の属性 子育てやしつけ、教育などについて 学歴社会や将来の社会人としてのあり方 子育てと夫婦の働き方 自治体に望む子育て支援策

【小学校 5 年生・中学 2 年生・高校 2 年生】

兄弟姉妹数 自己評価 (7 項目) 学校教育で役立つこと 悩みの相談相手 松戸市に欲しいサービス

【独身者】

性 別 将来の子育て不安 子育て支援策のあり方

【一般市民】

家庭における子育て分担 少子化問題について 今後力を入れるべき施策

【一般市民 & 独身者 (共通設問)】

仕事と家庭のバランスについて 子育て支援への公的負担について 少子化問題について

意見交換

座長（柏女教授）：今行政側から計画策定の基本的な考え方、並びにアンケートの結果などをふまえたご説明、また、今後のスケジュールの案などをいただきました。ありがとうございました。

このあとは委員の皆様方より、是非お一人おひとりから、今まで伺ったことをふまえながら今まで見聞きしたこと、あるいはご自身の体験もふまえながらこの次世代育成支援行動計画をつくる際にこんなことを提案したい、あるいはこんな姿勢で望みたいというようなことを、是非お一人おひとりからお話を伺えればと思っています。全員の方から伺いたいののでひとり3分位になってしまうかと思いますが、お考えのところを是非のべていただきたいと思います。所属と業務の内容など自己紹介も兼ねながらお願い致します。私も皆様方をぞんじあげないものですから秋山委員から順番によろしくお願い致します。

秋山氏：はい、母推会長の秋山でございます。よろしくお願い致します。

私は母子家庭のおせわをしております「松戸市母子福祉推進員協議会」という千葉県より組織された母子福祉推進員の団体の代表をさせていただいております。

今現在約225名の推進員が活動しておりますが、たまたま今私が心配しておりますことは、この制度は千葉県だけの制度で50年近く母子家庭の方が安心して暮らせることに生かされて活動して参りましたが、昨年の10月に県からこの母子家庭のおせわをしている母子福祉推進委員制度をなくすことが決定したことの連絡がありまして、今年度でなくなることになりました。

今松戸市でかかえております母子家庭世帯は約2850世帯で毎年約200世帯ずつふえておりまして、現在はその内離婚世帯が約9割でございます。今私が一番心配しておりますことはお母さんが働くわけですから、子どもたちを預ける場所ですね。預ける場所があってもお金都合つかない、学童保育所ってありますけども、そこもお金がかかりますので大変難儀していらっしゃると思いますので、お子さんたちがこれから育っていく上にはやっぱり皆さん方の援護が必要だと思います。

母子福祉推進委員がおこなっていた母子家庭のおせわを今年の12月1日からは民生委員さんがおこなうこととなりますが大変心配しております。

座長：はい、ありがとうございます。

どうしてもこの次世代育成支援行動計画といいますと、少子化対策ということで子育て家庭を応援していくということになってしまうのですけれども、ハンディキャップといいますか、さまざまな困難をかかえた方々が安心できるような、そんな計画をたくさん盛り込んで、いろんなところに目配りをしていくことが大事なのかな、そんなことを思いながら聞かせていただきました。

それでは、阿部委員お願い致します。

阿部氏：はい、今回一般公募で参加させていただくことになりました。阿部茂子と申します。よろしくお願い致します。

私は女性センターの1階の情報コーナーで臨時職員をさせていただいております。

女性センターの中にファミリーサポートセンターの事務所がありまして、そちらにお子さんをつれてお見えになる女性（お母様）が多くて、その方たちとお話しておりますと、子育てガイドブックと保育サービスの関係のものを松戸市でつくったものがあるのですが、そういうもの何かをご案内しながら、結構いろいろなサービスがありますが、そのことが周知されてなくて「こんなものがあったのか」とか「これだったら使える」とかそういうようなことが実際多くあります。

ですから、いろんなことができるサービスがあるのになかなか実際にユーザーの方が使え

ない、あるいは、それがわからなくて使えないってことが多いということでも残念です。

使いたい方が使えるサービス、それと同時にそれが周知されるような、何らかの方法が必要になっていふふうに思います。

それともう一つ、先ほど相談件数の中で母親が95%を占めるというような状況を見ると、子どもたちが健やかで安全な環境の中で育っていくためにはやはりその親をどのようにしていくのかっていう意味で、男性の生き方とか、またそれを企業がどういふふうな形で制度化していくのかっていうことが、今後大きな課題になるのかなっていふふうに実感として思っております。

座長：はい、ありがとうございました。

それでは次に伊藤委員お願い致します。

伊藤氏：はい、松戸市保育園協議会の副会長をおおせつっております伊藤操と申します。よろしくお願い致します。

第一回目の市民会議ということで参加させていただいたわけですが、全体的な趣旨とかアンケートの数字等を交えてご説明いただきましたが、今日ここで自分の意見とかは差し控えさせていただきましても、ちょっと私がびっくりしたのは、自分は児童福祉に関する仕事の中の1つを20数年やっていたにもかかわらず、私は逆に松戸市の行政のサービス(1番～15番)を聞きこんなにやっているのかということが実感なのですが、これを充実させるための市民会議だと私は認識したわけです。

ただ1つ残念なのはこれほどの市民サービスをさせておきながら、それでもご不満な人もおるでしょうけども、あまりアピールされていないじゃないかと、先ほどもおっしゃっていましたが、いろんなところで使用したくても使用できないとか、今回の法律により少子化の進行のストップ、未来を担う子どもたちの健やかな成長を願うための会議ができましたが、前にもこういう会議があってやってきていると思います。今回はみなさんでいろいろ考えながら、アピールをもっと充実した高度なものに定着させることが大事なかなと思います。

座長：はい、ありがとうございました。

次に大西委員お願い致します。

大西氏：大西でございます。よろしくお願い致します。

私は母子家庭の代表という気持ちで公募させていただきました。

他にもっと良い方がいらっしゃると思いますが、委員をやらせていただくことになりました。私は7年前に母子家庭になり、現在は民間企業の正社員として働きながら娘一人の子育てをしております。勤務して8年になります。

いままでの経験から気づいたこと、感じたことを少しお話させていただきます。

今後の自分のために経済的自立が必要だと感じ再就職を希望した際、ひとつの大きな壁にぶつかりました。まず、求職しても職探しが困難(年齢制限等)であったことです。そこでスキルを身に付けようと、これを解決するための公的機関での自立支援促進のパソコン教室などを利用したのですが、場所的・時間的に利用しにくい現状がありました。公共機関利用者側からの不満の声が具体的に発信され、上手に改善されればより有効に機関を活用できる人々が増えるのでは...と感じました。

また、次世代育成支援行動計画の中で私が最も感じていることは、社会全体の構造が変わらなければ実は何も変わらないのではないかとということです。会社での働き方、子供とのかかわり方、会社の子供・福祉に対する考え方...そういう基本的部分が人間的に良い方に変わっていかなければと。子育てがまるで仕事の邪魔...というような考え方から変わら

なければと思います。子どもとのかかわりのなかで、大人はパワフルなエネルギーをもらい、そのエネルギーが仕事や生活に生かされる...そして、子供も大人とのかかわりのなかで健全な精神が養われる。そのような循環ができれば良いと思っています。

私には現在、子どもを安心して預けることができるご夫婦がおります。あたたかな愛情を持ってみていただけることで子供にも精神的安定があり、本当に助かります。しかし、現実には多くの母子家庭で、子供を安心して預けることができる場所を見つけることは大変むずかしく、子供だけで夜遅くまで家にいるという生活を強いられていたりいたします。大変なときに殻にこもることなく、気持ちをオープンにでき、躊躇せずに預けること(また、相談すること)ができるような地域のコミュニティーが確立されると良いのではと感じます。

また、今後の希望として、利便性ある<駅>に図書館等公共施設や保育施設を併設していただきたいと思っています。このことで、利用者も増え都市活性化にもつながるのではないのでしょうか。

座長：はい、ありがとうございます。
次に奥山委員お願い致します。

奥山氏：はい、上本郷小の教頭と家庭教育学級主事をしております奥山でございます。よろしくお願い致します。

学校関係者ということで入っているの、まず学校の視点でお話しさせていただきたいと思っています。資料の中の「教育環境の整備」というところを見まして、やはり一番のねらいは一人ひとりの健やかな成長を願い、それが実現できるような行動計画になったらなという思いがあります。

今現場は佐世保の事件ですとか、なにか大きな事件報道がありますと敏感になってしまいます。防犯についても保護者の方々の意識が高くなりますけども、私たち職員も同じです。入ってくる人をどうやったらチェックできるかということを考えます。健やかな成長を願うためには、もちろん防犯だけではいけないことはわかっております。「こころ」の問題をかかえている子どもが多様化しておりまして、虐待がらみ、ひきこもり、不登校、きれる、交友関係がうまくつけれないなどの問題があります。しかし保護者と話し合いたいと思っても、なかなか問題をかかえている子の保護者は学校にきてくれないという実情もありますので、こちらから出て行くにはどうしたらいいか常に考えておかなければいけません。

また、全体をひっくるめて保護者とコミュニケーションを私たちもどう取っていくかというところが課題です。子どもどうし、家庭の中、保護者どうし、地域とのコミュニケーションの取り方等、それらがうまくいくと学校と保護者間も良くなっていくのかなと思います。

先ほどアンケートの結果を見まして、「もっと学校がしっかりしなきゃいけないよ」といわれているような思いがしました。というのはアンケートの中で「悩みの相談相手は」という質問に対して、学校の先生というのは10.5%ということでした。1割しかおりませんので、私ども自身も子どもとの信頼関係を築けるように努力しなければいけないと感じた次第です。

また、皆様方のご意見を聞きまして、これから学校で見たり調査したりできることもありますので、情報提供をしていきたいと思っています。

座長：はい、ありがとうございます。
小倉委員お願い致します。

小倉氏：はい、私はイトーヨーカ堂松戸店の小倉と申します。よろしくお願い致します。

私はイトーヨーカ堂におりますので売上を上げるためには、やっぱり年配の方がお店の前にふえてしまうよりもお子さん方や若いご夫婦がたくさんいられた方が、売上というのはどんどん上がっていきます。

松戸のイトーヨーカドーも駅前で23年間営業させていただいておりますけども、やはり今のところ景気が良かった頃のようにどんどん売上が伸びているというわけにはいかないのが実態です。

松戸ではないですが、たとえば近隣の都内で何店舗か営業していたりしますと、20年位の間に交通機関の変化等（地下鉄の駅が新しくできたりした場合など）または若者に人気の街が何かの事情で変わることにより売上が大きく変化します。というのは一時期ある駅に交通の流れ、人の流れが集中していたときはその駅前の店舗の売上が高かったものが、繁華街が他へ移って行くことにより下がります。

また、聞くところによりますと、ある地区は子どもの手当てとかが随分出るらしくて、そちらに若いご夫婦とかがだいぶ移っていて、そちらの店舗の売上が上がってきているという状況があります。

松戸の場合を考えますに、やっぱりもう一度地域を大きく見ていって住みやすい環境を大きな部分からもう一回つくっていただければ若い方が外から集まってきて、たとえば税収とかが上がってくるのではないのでしょうか。

たとえばどこか近隣で「あっちの方が住みやすいよ」とかであれば、そちらの方に若い方が流失してしまい少子化で新しく生まれる子どもが少ないわけですから、さらに少なくなり街がさびれていってしまう可能性がありますので、この松戸近辺のまちづくりというものをもう一回大きく活性化していかないと若い方が集まってこないのじゃないかと思えます。

今日アンケートなどの資料のご説明を聞いておりまして、そのような印象を今の時点では持たしていただきました。

座長：はい、ありがとうございました。

それでは続きまして坂本委員お願い致します。

坂本氏：松戸市 PTA 連絡協議会の副会長と現松戸市立第四中学校の PTA 会長をさせていただいております坂本政春と申します。よろしくお願い致します。

いろいろなお意見等をお聞かせいただきまして大変参考になりました。

私は今、子を持つ親として子育ての真最中でございまして、小、中、高、一人ずつおりますが、たまたまアンケートも小中高という形で出ていたものですから興味深く見させていただきました。

来校してみますと、今学校を取り巻く環境が大変きびしくなってきましたなかなかいろんな方を入れたいけど入れづらいとか、そういった人の流れとか、人との交わりが少しずつ欠けてきているのかなということを感じているところでございます。

たまたま校区と致しましては、自慢になってしまいますけども昨年第四中学校が吹奏楽部で全国大会に行かさせていただきまして金賞を受賞しました。また日本テレビ等でも全国放映させていただきまして、大分そういった意味で名前を出させていただきました。

四中がそういった番組に出るということで子どもが「おれは四中の卒業生なんだよとか、おれは四中生なんだよとか」最近胸を張っている場面が出てきております。なかなか今まで母校であるけど四中の卒業生ですと胸を張っている機会がなかったが、このように有名になったことによって私も実は四中の過去の吹奏楽部員だったんだよとか、子どもが胸を張って自分の学校を愛したりとか、しいていえば地域を愛したりとか愛着を持たせることが一番大切なのかな、そういうことによって次世代の考えを自分がそういう過去を持つことによって自分も子どもを持ちたい、そういう意識を持たすことによってどんどん出生率も上がってくるのではないかと思います。

第1回 市民会議議事録

昨今いろいろな暗い事件等がおきておりますから、子どもを育てることにに関して危惧している部分多いと思います。私ども PTA としましては、松戸市に小学校が47校ございます。PTA 連絡協議会に参加していただいているところが34校ございます。中学校が21校ございます。この内13校が PTA 連絡協議会に参加いただいております。やはり保護者と先生方がみつになって、いろんな形で進めていかないと解決しない問題が多いのかなと思います。それにうまく地域を取り込んで前向きな形で進めていくことによって、子を持って良かったなって思うような形になっていければうれしかなと思います。

今、自分も子どもをかかえて悪戦苦闘していて、どういうふうにしたら将来子どもが希望を持って健やかに育ってくれるかなと毎日毎日格闘しております。最近になって私は父親ですけども PTA 活動のため学校側に足をふみ込むことになりましたが、今まで見えなかった部分というのはすごく多くて、こんなにも学校側は大変だったのか、また親の方もこんなにも一生懸命いろんな形で活動しているのかというものが、なかなかやっぱり表に出てこない、そういう意味で市民の方ですとか子どもにも広げていけば認知もされますし、また前向きにもなるのではないかと思います。

今日いただきました資料に関しましてはまだ見てございませんので、日を追ってご意見させていただきたいと思います。

座長：はい、ありがとうございます。

それでは続いて鈴木委員お願い致します。

鈴木氏：はい、私は教育委員会のこども課に所属しております少年補導員（少年補導員連絡協議会の会長）をさせていただいております鈴木千枝子と申します。よろしくお願い致します。

私たちは非行の入り口にいる少年に愛の一声をかけて健全育成の方に導くということと、環境浄化活動と申しまして電話ボックスの中にピンクチラシが張ってありますので、それらを NTT から立入書をいただきまして剥がしておりますが、県下17市の内7割のピンクチラシが松戸市にある状況ですが、最近少し減りました。

それから自転車の二人乗りなんかも、せっかく少子化の中で生まれてきた大切な子どもですのでケガをしたり、また命をおとしたりしたら大変ですので、これは「道路交通法で自転車の二人乗りは禁じられているからよそうね」ということで、注意するタイミングが非常にむずかしいですけども、ちょうど止ったところで「ブレーキがきかなくなるとか、二人いっしょにケガをしてしまうとか、バランスがくずれるとか」ということで、お友だちにも「二人乗りはダメなんじゃない、と話してあげてね」と話まして、あるとき、またその子に会いまして「この間のこと話したよ」と言われたことがありまして、いい面もあるんだなと感じて、そういうことがいろいろあるので長くできるのかなと思っております。

やはり、いろいろ先ほどの事件などもありますので非行の入り口で防止することがいかに大切かということを感じております。それから、薬物乱用防止の活動も務めさせておりますが、これは保健所さんのご指導で活動しております街頭活動等をおこなっております。地域では青少年問題協議会ということで地域と学校と父兄が会議をおこなっており、私もそのお手伝いをさせていただいております。

今行政より松戸市の少子化が国の平均より進んでいるという説明がありましたが、それに対して私の町会（235所帯）でも子どもの数が急速に減りまして子ども会も14人と少なくなっておりますが、町会よりいくらかの補助金は出しております。お年寄りの方は敬老の日にお祝い金を出しておりますが、そちらの方ばかりがふえてしょうがないということで、14年度から私の町会では生まれてきた赤ちゃんにお祝い金を出そうということにしまして、その年に1件ありましたが、その後生まれておりませんのでいかに生まれてくる赤ちゃんが少ないか実感しております。

今回のこの計画が地域に浸透していったら活発に少子化の対策が取られれば良いなと思っ

ております。

座長：はい、ありがとうございます。
次に、竹内委員お願い致します。

竹内氏：私はCAP(キャップ)という子どもへの暴力防止のワークショップをおこなっている竹内由紀子と申します。よろしくお願い致します。

今小学校の中のクラス単位でワークショップをおこなったりしています。

現在、私たちのグループはメンバーが11人以上で、ほとんど松戸市に住んでいるんですが、なぜか松戸市では私たちの活動が定着している小学校とかが、まだまだ増えていかないのが現状で、私たちの一番の課題です。

実は、今日も筑波学園都市に出かけて行ってワークショップをおこなってきましたが、その活動は大人に対しても子どもに対しても私たちフィールドワークですので、その経験から何を言おうか考えていたんですけども、子どもの存在は私たち大人が考える以上に私たち大人をまず受容してくれている存在なんだなと私は思います。というのは暴力を振るう親であっても過度な期待をかける親であっても条件付きの愛情をかける親であっても受容してくれる存在なので、それを私たちは反対に子どもを通じて大人がどうやってコミュニケーションを築いていけるのかな、また問題を解決していけるのかなと思います。いろんな価値観があると思いますが、その違いを恐れたりしないで違いはあるものだと、いろいろな話し合いをしながら良いものをつくれば良いなと思います。

座長：はい、ありがとうございます。
それでは、武中委員お願い致します。

武中氏：今回公募で参加することになりました。子育て中の主婦で武中悦子と申します。よろしくお願い致します。

私は専業主婦として一般公募しました。家庭で子育てをしておりますが、いろいろな所で子どもの問題に関して「第一義的責任」が親(保護者)にあると言われ、家庭教育の低下が問題になると、私も親としてとてもつらい気持ちでいつも聞いております。もちろん親としてこの子を立派に育てようと思っているし、責任も感じていますが、親だけに責任を押しつけないでほしいのです。やっぱり地域全体で今やんちゃな子どもでも見守ってくれるとか、教えてくれるとか、してほしいと思ってきました。

4人の子育てを先輩や友人や周りの人たちに助けられ、教えられて楽しいと感じるようになりました。

私の要望は、一人で家庭で子育てしている人の要望を代表(代弁)すると思います。このアンケートを見まして私の予想していた通りの数字です。やっぱりこまかいことは数字では出てこない、こまかいことを子どもたちは要望していると感じております。それは、小学校の統廃合を教育委員会で進めておりますが、それについての実態調査はこのアンケートのようなことがあったんだろうとか、子どもの意見はどういうふうに繁栄されたんだろうか、先ほどご説明があった少年会議というのは、いつ、誰に、どんなテーマの会議があったんだろうかということを知りたい気がします。

座長：はい、ありがとうございます。
このあと、最後に事務局より、今出てきたようなこともふくめてご感想をいただきたいと思っております。
それでは田畑委員お願い致します。

田畑氏：松戸市私立幼稚園連合会の会長と新松戸幼稚園の園長をしております。田畑智枝

と申します。よろしくお願い致します。

私立幼稚園は今現在松戸で40園ございますが今のところそんなに減りもしないで皆さんやっております。3歳児が幼稚園に入るようになったことも関係しておりますが人数的にはまあまあというところでやっております。

その中に障害を持ったお子さんとか親が離婚なさった方とかたくさんいらっしゃいまして、そういう方たちの援助というものをもちろん考えていかなければいけないですけども、この次世代育成行動計画っていうと福祉ばかりが出てきてしまうようで、でも実際には地域のすべての子どもたちや家庭の支援でなければならないはずで、公立幼稚園と保育所と私立幼稚園では、それぞれ預けている家庭の負担、また一人のお子さんにかかる税金の割合にだいぶ開きがあるのではないかと思います。

保育所を利用されている共働きの家庭と幼稚園を利用されている専業主婦の家庭で実際にはそれほど収入の開きがないと思いますので、すべての家庭に同じように援助していくことが必要だと思います。

もちろん障害を持ったお子さん、またいろいろなハンディキャップを持ったお子さんも同じ人間に生まれてきたわけですので同じような環境で生活できて、同じような教育等を受けられるような支援をしていく必要があると思います。

座長：はい、ありがとうございます。

中村委員お願い致します。

中村氏：松戸女性会議の副会長をさせていただいている中村三千香と申します。

たまたま今日、子どもの育成に関する事で二件周りの人とお話することがございました。

1つはベテランの保健師さんたちとお話しましたが、松戸市は資料の中で虐待の件数が52件と出ていますけども実際は相当の数であろうと思います。そしてその虐待をどういふふうにしたら減らせるかということでお話しました。柏児童相談所でずいぶん対処してくださっておりますけれども、やはりなかなか目に見えないネグレクトとか虐待とかは各学校の状況を聞いてみますとかなり多いと思います。保健師さんたちがおっしゃるのには、まず十代のお母さんたちにそれこそ十年二十年前は妊娠したときには「生みなさい、生みなさい」とすすめました。ところが今は十代の妊娠した方たちの顔をみますと素直に生みなさいと進められないですよ。この方たちが虐待をせずにほんとにきちんと育てられるのだからかと思うととても不安になると。核家族の中で若いお母さんたちがどうやって子育てをしていくのだからかと。ほんとに懸念されます。それをどういふふうに周りで支援できるのだからかということを保健師さんたちも頭をかかえているところです。

それともう1つは一人親家庭とくに母子家庭ですが、地域の小学校、中学校に聞きますと13～14%が母子家庭でありその家庭はやはり経済的なものを母親が支えておりますからとても子どもに目がいく余裕がありません。今母子については仕事の技術のサポート等は公的などところでおこなっておりますけれども、それが実際の仕事と結びついていない部分があります。訓練はしますけどもそれで仕事は見つけられるのだからかということになりますと、なかなか受けた訓練で仕事には就けていないのが現状です。

この次世代育成支援行動計画の中でどのように支援していければいいのだからかと考えているところです。

座長：はい、ありがとうございます。

並木委員お願い致します。

並木氏：私は松戸市子ども会育成会連絡協議会の会長をしております並木幸雄と申します。よろしくお願い致します。

子どもは子ども会の関係ですので、よく言われる「子どもは、学校で学んで地域で育つ」この地域での活動ということになり、その中でいろいろなことを企画し活動しております。

先ほどのご説明で松戸市の出生率が全国平均を上回っていたものが下回るようになったということをお聞きしまして非常にびっくりしております。子ども会も年々加入するお子さんが減ってきている状況でありまして、どうすればこういう状況を止められるのかというようなことを考えておりますが、なかなか良いアイデアが浮ばないのが現状です。

今回、行政よりアンケートの結果等たくさん資料をいただきましたので、これを検討させていただきますまして考えていきたいと思っております。

座長：はい、ありがとうございます。

次に萩元委員お願い致します。

萩元氏：松戸青年会議所理事長の萩元と申します。よろしくお願い致します。

松戸青年会議所ではさまざまな町づくり運動をおこなっておりますけども、その中でも未来を担う子どもたちのために青少年育成事業には力を入れて取り組んでおります。本年度の取り組みとして、1つは学区を中心として地域の大人の人たちがもっと子どもたちの教育や子育てに関心をもって関わっていこうということで、PTCA運動とわれわれは言っていますが、PTCAとはPTAにコミュニティーをプラスしてPTCA運動というのを、学区単位でおこなうことを全市レベルで推進しております。

もう1つはその小さなコミュニティーどうしを結びつけて大きなネットワークづくりにも取り組んでおります。

もう1つは子どもたちに素晴らしい体験をしていただくということで、来月大きなイベントで7回目になりますサマーナイトウォークというのをおこなう予定になっております。

そうした青少年に関して取り組みをおこなっている中、今回このような市民会議が設置されたということは大変素晴らしいことだと思いますし、そこに席をおいていただいたことは大変光栄に思います。この会議でいろいろな意見が出されて計画されていくと思いますが、この次世代育成行動計画に関しては一番子どものためになるように、子どもを中心とした計画をわれわれ大人が考えていくべきだろうなと考えております。子どもたちが動いている現場の様子や声が一番反映される形で計画されるためにわれわれが呼ばれたのかなと思っております。

これから何回かの会議の中でできる限り現場、または実践の場が計画に反映できれば一番よろしいのかなと思っております。

座長：はい、ありがとうございます。

次に水野委員お願い致します。

水野氏：今回、共働きということで公募しました水野努と申します。よろしくお願い致します。

私は都心の民間企業に勤めておりまして中学二年の子どもが一人おります。児童福祉の関わりでいきますと共働きですので就学前は保育園、小学校のときは放課後児童クラブにお世話になっておりまして、たまたま放課後児童クラブの運営に若干たずさわった関係で松戸市にちょっと関わりが出てきまして、数年前児童福祉懇話会という会議に出さしていただいたことがありましたが、今回の市民会議に、今までお世話になった人が事務方にいらっしゃるということで出さしていただきました。

公募市民の場合、論文を提出することになっておりましてその内容ですが、1つは福祉サービスの評価システムをつくるということで今回のアンケートも評価の一種だと思いますが、こういった定点観測するなどして、具体的ニーズを捉えていって同一の施策を使っ

ていって評価をする。

もう1つは民間を活用していくこと、民間というのは民間企業のほか民間の市民という意味で、この活用の内容を具体的に計画の中に入れられたらなと思います。

座長: はい、ありがとうございます。

次に、宮都委員お願い致します。

宮都氏: 私は民生児童委員の宮都と申します。よろしくお願い致します。

次世代育成支援というと皆さん希望されるのは、1つは企業に対して働きながら子どもを育てるための環境をつくってくださいということが一番大きな要望でして、二番目は公共体による経済的な支援をしてくださいということですが、ただこれではほんとにいいのかなという気がします。私が今日のアンケートの中でびっくりしたのは「地域コミュニティ的な支え合いについての回答は少ない」と書いてありました。私が一言言いたいことは、この会議の中でやっていかなきゃいけないことは、安心して子どもを生み育てていくコミュニティタウンづくりをすることが一番の目標じゃないかと考えております。そして、できればそれを目標にしていろいろな事業などを計画していったらいいのじゃないかと思えます。

あと、事務局にお願いしたいことは、行動計画というのがありまして、それから皆さん方のニーズがありまして、それからすでにおこなわれているサービスありまして、それらを並列に書きますと、あと何が足りないのかが見えますと思いますので、そういうものを1つつくってほしいと思います。

座長: はい、ありがとうございました。

次に、村上委員お願い致します。

村上氏: 松戸健康福祉センター地域保健福祉課長（保健所）の村上テイと申します。よろしくお願い致します。

今年4月から組織が少し変わりました。保健部門と福祉部門が連携強化（1つは福祉と保健との情報提供の窓口を一本化することが大きな点で、2つめは県民の健康を守る、3つめは介護保険に対応した福祉の推進）のために、県下14ヶ所に保健所がありますが、それが、何々健康福祉センター（何々保健所）ということになりました。6月1日からはDV（配偶者や恋人から受ける暴力）相談支援センターとして開設されました。

私の仕事に関することですが、今日いただいたアンケートが、とても良くとられておまして、私の仕事に大変生かせるものと思います。ただ、8ページの「子育てやしつけ、教育などについて」のところに「親が子どものしつけに対して何をポイントにしておりますか」という項目あたりが1つ入れれば良かったなと思います。なぜかと言いますと、最近、子どもの言いなりになっている親が非常に増加しております。子どもが夜遅く帰っても何も言わない親とか、小学校低学年に携帯電話を持たせるとか、あと、叱らない親が非常にふえております。もちろん、怒ると、叱ることは、違いますが、やはり子どもは言ってもわからないときは体罰をあたえることも必要ですし、言ってもわかるときは、体罰をあたえる必要もございません。また思いやりの心が欠ける点が非常に多いです。

最近ある大学の卒業生が日本学生10人位と、外国の方と、アメリカでホームステイしていたときの話ですが、果物を置いておいたら、日本人のホームステイの学生が一人で全部食べてしまったということで、驚いていました。日本の場合は一人っ子、二人っ子が多いため、なんでもかんでも自分で独り占めができたのですけども、やはり10何人かでホームステイしたときなどには、みんなで分かち合って食べるっていうことのできていない日本の教育は、どうなっているのかって言われたことがあります。

それから、私は今まで疾病対策課というところにおりまして、夜間エイズ検査を毎月一

回おこなっておりましたが、高校生が制服のままエイズの相談にくる方がふえております。今までは着替えてからくるとかで、そういうことはなかったのですが今は平気ですね。ですから中学、高校で性教育をおこなってもとても間に合いませんので、小学校の学校教育等でキチンと教えなければいけないと思いますし、もちろん親もそうです。中絶というのは非常に女性の体をダメにします。精神的にも大変ダメにします。

こういう仕事に関して今後このような会議を通して、またアンケートを通して、何が今後何世代かを育てていくために一番必要なのか、何が大事なのか、何をすればいいのかを考えていかなければと思います。

私は今回のこの市民会議は、アンケートにより子どもを取り巻く考えや行政への要望などをふまえ、いろいろな立場の人たちが意見を出し合うことによって、必ず子どもに取って良いものができると思います。

座長：はい、ありがとうございました。

今活発なご意見をいただきまして8時の終了時間を若干過ぎてしまいました。私の不手際で時間をオーバーしていることをおわび申し上げます。

今さまざまなご意見を皆様方から頂戴しました。今まとめることはしませんけども、サービスのさまざまな内容についてのご意見も頂きました。それから、内容があっても使い勝手が悪いとか、PRされていないとか、そのサービスについての周知方法についてとか、あるいは子ども自身にも知らせなければならぬとか、そういうさまざまなサービスの周知方法についてとか、さらにこうしたサービスを誰が担うのかということですが、民間が担うのか、行政が担うのか、ボランティアが担うのか、そういうことについても議論しなければならぬとか、またサービスができてそれを評価することも必要なのではないとか、いろんなことを考えていかなければいけないと感じております。あと事業主がつくる行動計画との関係も大事にしなければいけないとか、いろいろ考えると障害者の行動計画とかにつき合わせていかなければいけないなとかいうような、さまざまなご意見が出されていたように思います。

これらのご意見を事務局でまとめていただき、庁内会議なり、ワーキングなりで議論していただければと思います。

その他連絡

(3) 次回開催日時場所について(事務局説明)

以上